

音楽科学習指導案

指導者 中野裕介

- 1 日時 平成17年11月14日(月) 5校時
- 2 学校・学級 盛岡市立上田中学校2年2組 男子19名 女子13名 計32名
- 3 題材名 音楽の構成
- 4 指導内容 学習指導要領[第2学年及び第3学年 B鑑賞ア]の指導事項から設定する。
指導事項ア・・・声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音との
かかわり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される曲想とのかかわりを理解して、楽曲全体を味わって聴くこと。
- 5 題材の目標
 - (1) オーケストラの多彩な音色や豊かな響き、楽曲の構成の働きによる曲想の変化に関心をもち、意欲的に聴く。
 - (2) オーケストラの多彩な音色や豊かな響き、楽曲の構成の働きによる曲想の変化を感じ取る。
 - (3) オーケストラの多彩な音色や豊かな響き、楽曲の構成の働きによる曲想の変化を理解して楽曲全体を味わって聴く。
- 6 教材 ベートーヴェン作曲 交響曲第5番八短調作品67「運命」 第1楽章
ベートーヴェン作曲/リスト編曲 交響曲第5番八短調作品67「運命」
(ピアノ独奏版)

7 題材について

学習指導要領の第2学年及び第3学年鑑賞の指導事項アは、「声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される曲想とのかかわりを理解して、楽曲全体を味わって聴くこと」を指導するように示している。本題材は、オーケストラの各楽器の多彩な音色や豊かな響きを感じ取るとともに、最初の動機が変化したり発展したりすることによって、曲の統一感が保たれていること、その間に対照的な旋律が挿入されて音楽が構成されていることなどに気づいたり、理解して聴くことによって、楽曲構成や表現の多様さも一層深く味わえる能力を育成するために設定した。また、ソナタ形式で構成されているこの楽曲では、主題提示部、展開部、再現部などの楽曲構成や理解とかかわらせて聴くことによって、各部分の曲想が感じ取りやすくなるとともに、楽曲全体を深く味わうことができると思われる。このような学習経験が積み重ねられることによって、音楽のよさや美しさに対する鑑賞の質が高まるとともに、幅広い鑑賞の力が育ち、音楽を更に深く感受し、鑑賞を深めていくことができる生徒の育成のために本題材を設定した。

本題材では、主に次の内容を指導する。

オーケストラの多彩な音色や響きを知覚し、その美しさや豊かさを感じ取ること。
音楽の流れの中における動機の反復、変化、2つの主題の対照を感じ取って聴くこと。

生徒は、昨年度、交響詩「ブルタバ(モルダウ)」でオーケストラの楽器とその音色、管弦楽曲の旋律やリズムと曲想の変化とのかかわり合いについて学習している。本題材では、交響曲でオーケストラの楽器の音色や響きを更に深めるとともに、楽曲の構成を感じ取りながら、楽曲全体を味わって聴く能力を育てたい。

指導にあたっては、オーケストラの各楽器の多彩な音色や豊かな響き、楽曲の構成による曲想の変化に焦点をあてて、指導内容の明確化・焦点化を図りながら、授業の目標やねらいを実現できるように留意したい。そのために、ピアノ独奏版とオーケストラ版の比較鑑賞を用いたり、部分的にフルスコアを用いての動機がどのように使われているか、2つの主題と曲想の雰囲気の違いをとらえさせたい。このような、本題材の指導をとおして、オーケストラの音色や響きのよさや美しさ、豊かさ、楽曲構成による曲想の変化を感じ取り、楽曲を味わって聴くことができるように指導したい。

8 題材の目標と評価規準

	観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点4 鑑賞の能力
題材の目標	・オーケストラの多彩な音色や豊かな響き、楽曲の構成の働きによる曲想の変化に関心をもち、意欲的に聴く。	・オーケストラの多彩な音色や豊かな響き、楽曲の構成の働きによる曲想を感じる。	・オーケストラの多彩な音色や豊かな響き、楽曲の構成の働きによる曲想の変化を理解し、楽曲全体を味わって聴く。
内容のまとめ りごとの 評価規準	・音楽の構成要素・表現要素の働き及びそれらが生み出す曲想の変化に関心をもち、意欲的に聴いている。 ・我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴、それらによる音楽の多様性、音楽の背景となる文化・歴史と他の芸術とのかかわりなどに関心をもち、意欲的に聴いている。	・音楽の構成要素・表現要素を知覚し、それらが生み出す曲想や美しさを感じ取っている。 ・我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴を感じ取っている。 ・音楽をその背景となる文化・歴史及び他の芸術とのかかわらせて総合的に感じ取っている。	・音楽の構成要素・表現要素の働き、及びそれらが生み出す曲想の変化を聴き取り、楽曲全体を味わって聴き取っている。 ・我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽の多様性を理解し、楽曲全体を聴き取っている。 ・音楽をその背景となる文化・歴史及び他の芸術とのかかわらせ、楽曲全体を総合的に理解し、聴き取っている。
題材の評価規準	・オーケストラの多彩な音色や豊かな響き、楽曲の構成の働きによる曲想の変化に関心をもち、意欲的に聴いている。	・オーケストラの多彩な音色や豊かな響き、楽曲の構成の働きによる曲想を感じ取っている。	・オーケストラの多彩な音色や豊かな響き、楽曲の構成の働きによる曲想の変化を理解し、楽曲全体を味わって聴いている。

9 学習活動における具体的評価規準

観点1 音楽への関心・意欲・態度	観点2 音楽的な感受や表現の工夫	観点4 鑑賞の能力
オーケストラの各楽器の音色やその組み合わせによる豊かな響きに関心をもち、意欲的に聴いている。 動機の繰り返しと積み重ね、2つの主題の対比による表現効果に関心をもち、意欲的に聴いている。	オーケストラの各楽器の音色やその組み合わせによる豊かな響きを感じ取っている。 動機の繰り返しと積み重ね、2つの主題の対比による表現効果を感じ取っている。	オーケストラの各楽器の音色やその組み合わせによる豊かな響きを理解して楽曲全体を味わって聴き取っている。 動機の繰り返しと積み重ね、2つの主題の対比による表現効果を理解して楽曲全体を味わって聴き取っている。

10 指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	題材の評価規 準との関連	評価方法等
1	<p>オーケストラの各楽器の音色やその組み合わせによる表現の特徴に関心を持ち、それらを感じ、楽曲全体を味わって聴く。</p> <p>1 「運命」第1楽章の最初の部分をオーケストラ版とピアノ独奏編曲版の2通りの演奏で比較鑑賞し、その相違点を聞き取り、お互いに発表し合う。</p> <p>2 「運命」の第1楽章の提示部を聴き、この曲に用いられている楽器の音色や組み合わせによる豊かな響きを知覚し、感じたことを発表し合う。</p> <p>3 「オーケストラの楽器」をLDで視聴し、楽器の名称と形態、音色と響きをとらえる。</p> <p>4 本時に学んだことを「運命」の第1楽章をLDで視聴することで確認する。</p>	<p>観点1 -</p> <p>観点2 -</p> <p>観点2 -</p>	<p>< 観察 > (発言の内容や挙手による確認) (学習カードの設問1への記入の状況) ・比較鑑賞によって音色等を聴き取ろうとする関心・意欲・態度の状況を評価する。</p> <p>< 学習カード > (学習カードの設問2・3への記入の状況) (発言の内容や挙手による確認) ・オーケストラの各楽器の音色や響きについて、知覚したことや感じ取ったことの実現状況を評価する。</p> <p>< 聴取質問紙 > (学習カードの設問4への記入の状況) ・本時の学習内容について、実現状況を評価する。</p>
2 本 時 2 / 2	<p>動機の繰り返しと積み重ね、2つの主題の対比による曲想の変化に関心を持ち、それらを感じ取るとともに、楽曲全体を味わって聴く。</p> <p>1 「運命」第1楽章の提示部を聴き、特に印象に残ったリズムについて話し合う。</p> <p>2 「運命の動機」について説明し、冒頭24小節間で何回繰り返されているか聞き取り、学習カードに記入する。</p> <p>3 動機の現れに注意して再度58小節(提示部第1主題部)までを聴く。</p> <p>4 提示部を聴き、曲の雰囲気が変わった箇所を挙手をする。</p> <p>5 第1主題と第2主題とを比較して、感じ方の違いを学習カードに記入し、発表する。</p> <p>6 ソナタ形式について知る。</p>	<p>観点1 -</p> <p>観点2 -</p> <p>観点2 -</p>	<p>< 観察 > (発言内容や挙手による確認) (学習シート設問1・2への記入の状況) ・動機のリズムを聴き取ろうとする関心・意欲・態度の状況を評価する。</p> <p>< 学習シート > (学習シート設問3・4への記入の状況) (発言の内容や挙手による確認) ・動機の繰り返しや積み重ねの感受の状況を評価する。</p> <p>・第2主題と第1主題の比較の感受の状況を評価する。</p>

7 学習したことを振り返りながら、第1楽章を通して聴き、感じたことを学習カードに記述する。	観点4 - 観点4 -	< 批評文 > (学習シート設問5への記入) ・本時の学習内容を観点にした批評文を書かせることで、本時の学習内容の実現状況を評価する。
---	----------------	---

1 1 本時の展開 (第2時)

時間	ねらい・学習活動	指導上の留意点	資料・教具等
10分	<p>動機の繰り返しと積み重ね、2つの主題の対比による曲想の変化に関心を持ち、それらを感じ取るとともに、楽曲全体を味わって聴く。</p> <p>1 第1楽章の提示部を聴き、特に印象に残ったリズムを学習カードに記入する。</p> <p>2 「運命の動機」について説明し、冒頭24小節間で何回繰り返されているか聴き取り、学習カードに記入する。</p> <p>— 本時の学習課題 —</p> <p>「運命の動機」に注意して第1楽章を聴き、曲の特徴を感じ取ろう。</p>	<p>・提示部のみを取り出して聴く。</p> <p>・印象に残ったリズムの記入はリズム譜または擬音語にさせる。</p> <p>・回数 of 正解を当てるとということよりも、動機が繰り返されたり、積み重ねられたりして曲が構成されていることを実感させる。</p>	<p>C D 紙板書 学習カード</p> <p>C D 学習カード</p> <p>紙板書</p>
30分	<p>3 動機の現れに注意して再度冒頭から58小節(提示部第1主題部)までを聴き、感じたことを学習カードに記入する。</p> <p>4 提示部を聴き、曲の雰囲気が変わった箇所です挙手をする。</p> <p>5 第1主題と第2主題とを比較して、感じ方の違いを学習カードに記入し、発表する。</p> <p>6 ソナタ形式について知る。</p>	<p>・あらかじめ動機の部分に印を付けた提示部の総譜を配布し、それを見て動機の現れを意識させる。</p> <p>・第1主題の用語を説明する。</p> <p>・曲の雰囲気が変わった箇所です手を挙げさせ、第2主題の出現に気づかせる。</p> <p>・第2題を支える低弦にも「運命の動機」が現れることにも気づかせる。</p> <p>・第1主題と第2主題をそれぞれピアノで弾いて、旋律の雰囲気の違いを理解させる。</p> <p>・ソナタ形式について、提示部、展開部、再現部、終結部の枠組みを理解させる。</p>	<p>C D 総譜 学習カード</p> <p>学習カード</p> <p>紙板書</p>
10分	7 学習したことを振り返りながら、第1楽章を通して聴き、感じたことを学習カードに記述する。	<p>・楽器の音色や響き、楽曲の構成に注意しながら、LDで鑑賞させる。</p> <p>・何人が指名し、発表させる。</p>	<p>L D 学習カード</p>

1 2 観点別評価の進め方

学習活動における具体的評価規準	おおむね満足できる状況であると判断する具体的な状況例（B）	Bのうち十分満足できる状況であると判断する具体的な状況例（A）
<p>【観点1 音楽への関心・意欲・態度】</p> <p>オーケストラの各楽器の音色やその組み合わせによる豊かな響きに関心をもち、意欲的に聴いている。</p> <p>動機の繰り返しと積み重ね、2つの主題の対比による表現効果に関心をもち、意欲的に聴いている。</p>	<p>ピアノ独奏編曲とオーケストラの「運命」の演奏を聴き、その音色や響きの特徴について、自分の考えを发表或し、挙手などで自分の考えを意思表示したり、学習カードに記入したりしている。</p> <p>動機のリズムや旋律、2つの主題について、自分の考えを发表或し、挙手などで自分の考えを意思表示したり、学習カードに記入したりしている。</p>	<p>ピアノ独奏編曲とオーケストラの「運命」の演奏を聴き、その音色や響きの特徴について、自分の考えを意欲的に发表或し、意欲的に自分の考えを意思表示したり、学習カードに十分記入したりしている。</p> <p>動機のリズムや旋律、2つの主題について、自分の考えを意欲的に发表或し、挙手などで意欲的に自分の考えを意思表示したり、学習カードに十分記入したりしている。</p>
<p>【努力を要すると判断する生徒（C）への指導の手だての例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色について表現できない生徒に対して、擬音語などの簡便法で記入させる。 ・全体的な響きをどのように表現したらよいか、周囲の生徒と話し合わせてイメージをもたせる。 ・響きについてうまく表現できない生徒に対して、擬音語や音に対するイメージを身体表現させるなどの方法で表現させる。 		
<p>【観点2 音楽的な感受や表現の工夫】</p> <p>オーケストラの各楽器の音色やその組み合わせによる豊かな響きを感じ取っている。</p> <p>動機の繰り返しと積み重ね、2つの主題の対比による表現効果を感じ取っている。</p>	<p>第1時学習カードの設問2・3への記入と学習カードの設問4の聴取質問紙の解答状況 ・楽器の音色を聴き分け、またどのような感じがしたか、1～2種類の楽器について指摘し、記入している。 また、聴取質問紙については3種類ぐらい聴き取ることができている。</p> <p>第2時学習カード設問3・4への記入 ・動機のリズムを聴き取り、そのリズムの繰り返しや積み重ねによって構成されていることについてどのように感じたか記入している。 ・2つの主題を聴き取り、その対比についてどのように感じたか記入している。</p>	<p>第1時学習カードの設問2・3への記入と学習カードの設問4の聴取質問紙の解答状況 ・楽器の音色を聴き分け、またどのような感じがしたか、3種類以上の楽器について指摘し、記入している。 また、聴取質問紙についてはほぼすべてについて聴き取ることができている。</p> <p>第2時学習カード設問3・4への記入 ・動機のリズムを聴き取り、そのリズムの繰り返しや積み重ねによって構成されていることについてどのように感じたか十分記入している。 ・2つの主題を聴き取り、その対比についてどのように感じたか十分記入している。</p>
<p>【努力を要すると判断する生徒（C）への指導の手だての例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弦楽器、木管楽器、金管楽器、打楽器に分けて着目させて、聴き取らせる。 		

- ・楽器の音色に対する自分なりのイメージや直感的な感じ取りなどを大切にする。
- ・周囲の生徒の意見を参考にして考えさせる。
- ・楽器の音色を文章表現しにくい時は、擬音語などで表現させる。

<p>【観点4 鑑賞の能力】</p> <p>オーケストラの各楽器の音色やその組み合わせによる豊かな響きを理解して楽曲全体を味わって聴き取っている。</p> <p>動機の繰り返しと積み重ね、2つの主題の対比による表現効果を理解して楽曲全体を味わって聴き取っている。</p>	<p>第2時学習カードの設問5批評文の記入状況</p> <p>・第1～2時の学習内容をい</p> <p>くつか生かして批評文を書いている。</p>	<p>第2時学習カードの設問5批評文の記入状況</p> <p>・第1～2時の学習内容を網羅して批評文を書いている。</p>
--	---	---

< 第1時学習カード >

- 1 アとイの演奏を聴き、楽器の音色や響きについて、相違点などの気づいたことを書いてみましょう。(観点1 - 及び観点2 - の状況を把握するための設問)
- 【Bと判断・・・どのような感じがしたか、漠然としていても記入している。】
- 【Aと判断・・・どのような音色や響きで、どのような感じがしたか、自分なりのイメージや感じ取ったことを記入している。】

	楽器の音色	全体の響き
アの演奏	ピアノの音。硬くてポロポロしている。	一音一音が切れている感じ。あまり、響いていないが、透き通っている感じ。
イの演奏	たくさんの楽器の音が聴こえた。アより音が厚い感じ。	音がずっと響いている。余韻が残るような響き方。広がりがある響き。

- 2 この演奏で使われている楽器の音色を聴き分け、どのような音色であったか、そしてその音はどのような感じがしたか、書いてみよう。(観点2 - の状況を把握するための設問)
- 【Bと判断・・・1～2種類の楽器について指摘し、記入している。】
- 【Aと判断・・・3種類以上の楽器について指摘し、記入している。】

楽器名	どのような音色でしたか	どのような感じがしましたか
コントラバス	太くて低い音。	高い音を支えている感じ。心臓にドクドクとくる感じ。
ヴァイオリン	柔らかくて流れる音。音が高い。	たくさんの人数で演奏している感じ。
ティンパニー	低くてボンボンしている。ド・ド・ドと迫力のある低い音。	突っ込んでくるような迫力のある感じ。全体を支えている感じ。
フルート	優しい音色。なめらか。	透き通っている感じ。
ピッコロ	とても高い音。	小鳥が鳴いている感じ。

- 3 LDで視聴し、音色や響きの特徴について、感じたことや気づいたことなどを、記入してみよう。(観点2 - の状況を把握するための設問)
 【Bと判断・・・どのような感じがしたか、漠然としていても記入している】
 【Aと判断・・・どのような音色や響きで、どのような感じがしたか、自分なりのイメージや感じ取ったことを記入している。】

どのような音色や響きでしたか	どのような感じがしましたか
<ul style="list-style-type: none"> ・勢いや迫力があるけど、その中になめらかさもある。 ・一つ一つの楽器が違う音色を持っていて、それらが混ざり合って厚みのある響きになっている。 ・音の広がりがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏している人が指揮者に集中し、一体感があった。 ・それぞれのパートが互いに聴き合っている感じがした。 ・なめらかな部分と強い部分の差が大きい感じ。

- 4 この時間の学習のまとめをしましょう。音を聴いて、下のa、bの問いに答えましょう。
 【Bと判断・・・a～bのうち、およそ半分くらい適切な解答をしている。】
 【Aと判断・・・a～bのうち、半分以上(ほぼすべて)適切な解答をしている】

【聴取質問紙の例】

a	アとイの2種類の音楽を聴いて、オーケストラの演奏はどちらだと思いますか。オーケストラの演奏であると思う方に つけましょう。		
	ア	イ	
b	次のア～オの演奏を聴き、その音色や響きから何の楽器であるか楽器名を答えましょう。		
	ア	イ	ウ
	エ	オ	

< 第2時学習カード及び生徒の記入例 >

- 1 演奏を聴いて、特に印象に残ったリズムを書きましょう。
 (観点1 - の状況を把握するための設問)

<table style="margin: auto;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">2</td> <td style="border: 1px solid black; width: 100px;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;">4</td> <td style="border: 1px solid black; width: 100px;"></td> </tr> </table>	2		4		または タ・タ・タ・ターン ジャ・ジャ・ジャ・ジャーン バ・バ・バ・バーン
2					
4					

- 2 最初から24小節目までで、「運命の動機」は何回繰り返されていますか。
 (観点1 - の状況を把握するための設問)

14	回
----	---

3 「運命の動機」の繰り返しや積み重ねから、この曲の冒頭から58小節までをどのように感じましたか？
(観点2 - の状況を把握するための設問)

【Bと判断・・・どのような感じがしたか、漠然としていても記入している。】

【Aと判断・・・「各パートの重なり方」「担当楽器の種類」「動機に用いられる音の高さ」などの内容で、どのような感じがしたか、自分なりのイメージや感じ取ったことを記入している。】

【Bと判断する記入例】

たった2小節の動機が繰り返されているだけなのに、曲になっていて凄と思った。

【Aと判断する記入例】

2小節の動機が、たくさんの楽器で同時に演奏されたり、音の高さを変化させてバラバラに演奏したりするなど、様々な変化をさせるだけでも曲になっていたの、凄と思った。

4 第2主題は、第1主題と比較したとき、感じ方はどのように違いますか？
(観点2 - の状況を把握するための設問)

【Bと判断・・・どのような感じがしたか、漠然としていても記入している。】

【Aと判断・・・どのような感じがしたか、自分なりのイメージや感じ取ったことを記入している。】

【Bと判断する記入例】

第1主題は激しい感じがしたが、第2主題は穏やかな感じがする。

【Aと判断する記入例】

・力強く、男性的な第1主題に対して、第2主題は優しく、女性的な感じがした。
・激しく、短調の旋律の第1主題と比較すると第2主題は、甘美な長調の旋律のような感じがした。

5 第1楽章を聴いて、この題材で学習した内容を生かして感想を書いてみましょう。
(観点4 - の状況を把握するための設問)

【Bと判断・・・オーケストラの各楽器の音色やその組み合わせによる豊かな響き、動機の繰り返しと積み重ね、対比する2つの主題の働きによる曲想の変化のうち、いずれかを生かして批評文を書いている。】

【Aと判断・・・オーケストラの各楽器の音色やその組み合わせによる豊かな響き、動機の繰り返しと積み重ね、対比する2つの主題の働きによる曲想の変化のうち、複数を生かして批評文を書いている。】

<キーワード：オーケストラの多彩な音色、豊かな響き、運命の動機、第1主題、第2主題>

【Bと判断する記入例】

2小節の動機が繰り返されたり、次々とたたみかけるように現れたり、音の高さや楽器編成を変えるだけで曲を構成できることが分かった。また、力強い第1主題と甘美な第2主題のように対比的な主題を挿入することによって、楽曲の雰囲気を変えられることに気づいた。

【Aと判断する記入例】

弦楽器特有の厚みのある響き、木管楽器の柔らかな音色、金管楽器の張りのある音色、それらを支える打楽器の音色のすべての一体感が、あのような豊かな響きをつくり出すものだと感じた。また、たった2小節の動機を楽器の編成や音の高さを変化させて、繰り返したり積み重ねたりすることで楽曲が構成されていて、曲の統一感みたいな工夫が感じられた。と同時に、2小節の動機で楽曲を構成することが可能であることに気づいた。古くから名曲として親しまれているのは、そういった楽曲構成の統一感があるからなのかもしれない。他の楽章も是非聴いてみたい。